

小平市 農業委員会だより



発行:小平市農業委員会 〒187-8701 小平市小川町2丁目1333番地
電話:042-346-9533(直通) FAX:042-346-9575

令和4年7月(2022年)
第26号

小平市内でも生産緑地の貸借が進んでいます

平成30年(2018年)9月に都市農地貸借円滑化法が施行され、生産緑地の貸借ができるようになってから、3年以上経過しました。小平市では、平成31年3月に初めて認定を行ってから、令和4年3月までに24件(内10件は更新・変更)の認定を行いました。

都市農地貸借円滑化法 事業計画認定件数(件)

	新規	更新・変更
平成30年度	3	—
令和元年度	2	1
令和2年度	3	3
令和3年度	6	6

☞ 制度の特徴

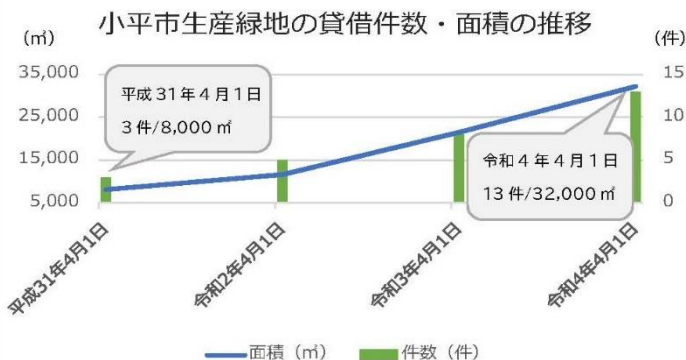
- 貸借期間が終了し、契約を更新しなければ、生産緑地は必ず所有者に返されます。
- 使用貸借(無償)の場合は、「農地所有者(貸す人)に相続が発生したときは、農地を返す」という内容の契約を結ぶことが出来ます。
- 所有者(貸す人)は、生産緑地を貸している間も、一定以上農業に従事していれば、契約期間中に亡くなったときに、その生産緑地の「主たる従事者」として認められ、買取申出が可能です。
- 納税猶予を受けている生産緑地も貸すことができます。

☞ 貸借をするためには？

生産緑地の貸借をするためには、貸す人と借りる人とで貸借の契約を結び、借りる人が事業計画を小平市に提出します。提出された計画は、農業委員会で審査を行います。農地を借りる人は、「農業経営ができる人」として農業委員会が認められる必要があります。詳しい要件については、農業委員会事務局までお問い合わせください。

☞ 小平市の状況

現在小平市で生産緑地を借りている人の多くは、市内の農家で、相続で減ってしまった農地の補てんや、経営拡大などを目的としています。農家以外の出身で、研修機関や農業法人で経験を積み、独立のために生産緑地を借りている人は2名います。市内で行われている貸借の件数、面積は年々増加しており、令和4年4月1日現在、13件、約32,000㎡の貸借が行われています。



生産緑地の貸借をお考えの方は、
農業委員会へご相談ください



令和3年度 顕彰事業

令和3年度も、小平地区では数多くの農家が栄えある賞を受賞されました。大変おめでとうございます。

○ 第61回企業的農業経営顕彰 東京都農業会議

企業的農業経営顕彰は、企業的農業経営を確立し実践している農業者の方を表彰するもので、昭和36年から実施されています。令和3年度は、4名の方が受賞されました。

小川 裕明 氏、小川 公子 氏(小川町1丁目)
東京都知事賞・東京都農業会議会長賞



小川氏は、花の摘み取り農園という経営スタイルをいち早く確立しました。児童福祉施設の受け入れなど農福連携にも積極的に取り組んでいます。

酒井 充 氏、酒井 清美 氏(小川町1丁目)
全国農業会議所会長賞・東京都農業会議会長賞



酒井氏は、土づくりにこだわり、安全・安心な野菜生産を行っています。小平市多摩有機農業研究会の会長を歴任しています。

深谷 勉 氏(鈴木町1丁目)
全国農業会議所会長賞・東京都農業会議会長賞



深谷氏は、消費者が生産者とふれあいながら、自ら作物を収穫する観光農園を展開しています。異業種との交流も行っていきます。

立川 栄 氏、立川 三千代 氏(小川町1丁目)
東京都産業労働局長賞・東京都農業会議会長賞



立川氏は、小麦栽培やうどん打ちなどの食育活動を通じて、小平の伝統的な風景や味を次世代に繋げています。

○ 第41回農業後継者顕彰 東京都農業会議

農業後継者顕彰は、農業の新しい担い手として活躍されている後継者の方を表彰するもので、昭和56年から実施されています。令和3年度は、2名の方が受賞されました。

中島 雅幾 氏(天神町4丁目)
全国農業会議所会長賞・東京都農業会議会長賞



中島氏は、農業試験場で学んできた知識や技術を活かし、家族の中心になって多品目栽培を行っています。

宮奈 マリ子 氏(御幸町)
東京都農業会議会長賞



宮奈氏は、東京都エコ農産物の認証を取得するなど、家族で安全・安心な野菜を生産し、幅広い販路に出荷しています。

○ 第48回農業功労者感謝状 東京都農業会議

農業功労者感謝状は、地域農業の振興に尽力されてきた農業者の方に感謝の意を表するために贈られるものです。

竹内 政子 氏(花小金井7丁目)



竹内氏は、約60年間農業に従事し、現在でも庭先販売を中心に活躍されています。

○ 農業功労者表彰 内田農業振興会

内田農業振興会農業功労者表彰は、農業の調査研究や都内の農業振興に多大な功労があった方を表彰するもので、昭和43年から続く伝統ある賞です。

内堀 眞一 氏(美園町2丁目)

緑綬功労表彰



内堀氏は、この功労表彰において功績が顕著な方に贈られる、緑綬功労表彰を受賞されました。

○ 優秀農業経営者表彰 北多摩地区農業委員会連合会

北多摩地区農業委員会連合会優秀農業経営者表彰は、北多摩地区において他の農業者の方の模範になるような優秀農業者の方を表彰するものです。

齋藤 信吉 氏(大沼町3丁目)



齋藤氏は、意欲的な農業経営を通して、地域農業の発展に尽力されました。

○ 新規就業者奨励賞 東京都農林水産振興財団

新規就業者奨励賞は、前年度に新規就業した、意欲的な農林水産業者の方に贈られます。令和3年度は、令和2年度に就業した5名の方が受賞されました。

青木 隆幸 氏(小川町2丁目)



主な作物
トマト、キュウリ、トウモロコシ
ハクサイ、キャベツ、ダイコン
ブロッコリー等

深谷 素司 氏(鈴木町1丁目)



主な作物
ブルーベリー、サツマイモ、
エダマメ、ダイコン等

當麻 大輝 氏(大沼町2丁目)



主な作物
キャベツ、ブロッコリー、
トマト、トウモロコシ等

高橋 智子 氏(大沼町5丁目)



主な作物
トウモロコシ、エダマメ、
トマト、ダイコン、キャベツ等

加藤 敦士 氏(小川町1丁目)



主な作物
サトイモ、エダマメ、ダイコン、
ブロッコリー等



おらが畑

小平の農業を紹介します!!



園主の吉沢さん



盛り土の様子

今回は、小川町の吉沢美智男さんの果物畑を紹介します。

吉沢さんは現在、梨とブドウを「根域制限栽培」という新しい方法で栽培しています。根域制限栽培とは、苗木を地面に直接植えるのではなく、盛り土やポットなどで土と根を制限し、与える水分や養分の量を管理して栽培する方法です。

吉沢さんが梨の根域制限栽培を始めたのは6年程前のことでした。お父さんから引き継ぎ大切にしていた梨畑でしたが、木が歳を取るにつれて、収穫量が減り始めていました。ちょうどその頃、新しく開発された根域制限栽培の導入に東京都が補助を始めることを知り、思い切って、全ての梨の木を植え替えて、根域制限栽培に切り替えました。さらに1年後には、ブドウの根域制限栽培を導入しました。

根域制限栽培を導入したメリットは「省力栽培・高収量」だと吉沢さんは話します。畑には等間隔で梨の木が植えられているので、作業動線が直線で、木の手入れがしやすく、無駄な動きを省けます。また、地面に植える栽培方法と比べて同じ広さの畑で約2倍の収穫量を目指すことが出来ます。そして、ただ収穫量を増やすだけでなく、品質も安定します。すべての木の環境条件が一定に保たれるので、高品質な梨の実をたくさん収穫することが可能になるのです。

もちろん、新技術の導入は大変なものです。導入するのにも維持をするのにもお金がかかりますし、導入してから収穫できるようになるまでの3年間は売上がありません。それでも、住宅に囲まれた限られた面積の畑という特徴を活かすために有効な選択でした。小平の様な都市農業では消費者と生産者の顔がお互いに見える距離の近さが特徴です。吉沢さんは自身の都市農業に誇りを持ち、すぐ近くにいる消費者に安全安心な作物を届けるため工夫を続けています。



根域制限栽培が導入された吉沢さんの梨畑

農業者年金に加入しませんか？

農業者年金は、自ら積み立てた保険料とその運用益で将来の年金額が決まる「積立方式」の公的年金です。支払う保険料の全額が社会保険料控除の対象で、運用益も非課税です。 お問い合わせは農業委員会まで

全国農業新聞を購読しませんか？

全国農業新聞は、農業委員会ネットワーク機構である「全国農業会議所」が発行する週刊紙です。最新の農業情勢のほか、地域の話題やイベント情報も掲載されています。

■月4回 金曜日発行 ■購読料 月額700円（送料、税込み） お問い合わせは農業委員会まで

NOSAI東京よりお知らせ 収入保険に加入しませんか？

収入保険は、農作物の販売収入の減少を補てんします。

お問い合わせ 東京都農業共済組合（NOSAI東京） ☎042-381-7111

編集後記

私たち24期農業委員の活動が始まってから、2年が経とうとしています。

任期が始まった令和2年7月は、既にコロナ渦でしたので、総会や調査など最低限必要な活動以外の集まりは、まだ一度も出来ていません。近所の農家同士が集まって話す機会もぱったりと無くなってしまいました。他所の情報を得る機会が少ないので、農業委員の手助けを必要としている方を見つけにくいのが現状です。

暖かい季節になりました。畑や直売が色とりどりの作物で賑やかで、眺めているのも楽しいものです。この機会に周囲の畑の様子を見つめなおし、残り1年の活動をより有意義なものにできればと思います。（井上幸雄）